

令和5年度全国安全週間の実施について

富岡甘楽広域消防本部では、全国安全週間中に今年度組織目標に掲げました「事故0」を目指して、具体的実施事項等を示し、労働災害防止活動の推進を図り、安全に対する職場での意識と行動が、これまで以上に取り組めるよう以下の事項を実施いたしました。

1 危険予知訓練の実施

危険予知訓練とは、現場や訓練の中に潜む危険要因と、それが引き起こす現象を、イラストシートにしたものを使って、小集団で話し合い、考え合い、分かり合って、危険なポイントや重点実施項目を指差呼称で確認し解決する訓練です。

危険予知訓練は、危険（キケン、Kiken）のK、予知（ヨチ、Yochi）のY、トレーニング（トレーニング、Training）のTをとって、KYTともいいます。

KYT（危険予知訓練）

・4ラウンドKYT	スローガン 「○○○○ヨシ！」 ↓
1R 現状把握	
2R 本質追究	
3R 対策樹立	
4R 目標設定	
・指差呼称	
眼	確認する事をしっかり見る
口	大きな声でしっかりと伝える
耳	自分の声を聴く
指	確認する事をしっかり指す



危険予知訓練を実施することにより、隠れた危険を再認識することができました。

2 ヒヤリハット事例検討

ヒヤリハットとは、思いがけない出来事に「ヒヤリ」としたり、事故寸前のミスに「ハッ」としたりすることが名前の由来です。「1件の重大事故の背後には29件の軽微な事故があり、さらにその背後には300件の異常が存在する」というもので、この300件の異常こそが「ヒヤリハット」です。

ヒヤリハット事例検証では現場での注意点や改善策などを話し合うことにより、意識の向上が図れました。

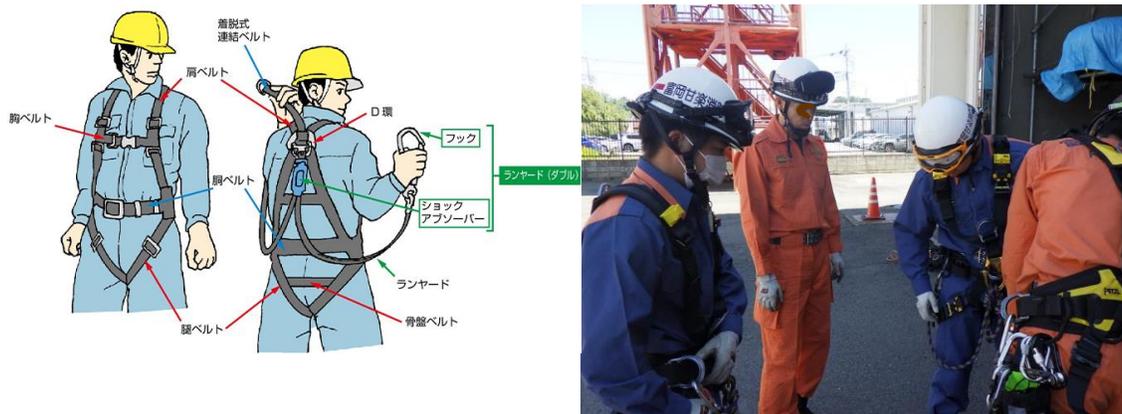
訓練時に異常行動があった際は訓練を中断し、異常行動を全体にフィードバックしました。実際にやって見せ、やらせて見せて、異常の存在を説明し検証することにより安全意識の向上が図れました。

災害事例の情報提供、検討を行い自分事にさせることで、重大事故、軽微な事故、異常の存在を確認する事ができました。

3 フルハーネス型墜落制止用器具取扱研修

フルハーネス型墜落制止用器具とは墜落による死亡災害をなくすため、2022年1月2日から6.75m（建設業では5m）以上の高所では着装が義務化となっているものです。フルハーネス型墜落制止用器具の他に

も命綱として、ショックアブソーバーやフック、ランヤードなど高所作業をおこなう際には適正な道具の使用が必要となっています。



研修を行うことにより、フルハーネス型墜落制止用器具の適切な装着方法、使用方法及び注意点が再確認できるとともに、フックの取り付け位置やランヤードの使用方法が理解できました。

4 個人装備や使用資機材の点検

個人装備の破損状況を点検し、現場での危険要素排除を意識付けました。また、災害用に準備している土のうが劣化していたため、土のうの詰め替え作業を行いました。個人装備や使用資機材の点検をすることにより、現場活動や訓練に対する職員の安全意識が向上しました。

5 敷地内及び庁舎の危険箇所総点検

エアコン室外機の漏電防止、庁舎敷地側溝清掃。庁舎内で使用頻度の少ない物を移動することにより、安全な動線の確保ができ作業の時間短縮につながりました。

6 暑熱順化訓練及び熱中症研修

暑熱順化訓練とは、徐々に体を暑さに順応させ、体温調節を上手くできるようにする訓練で、同じ暑さであっても熱中症になりにくい体になっていきます。

熱中症研修を実施するとともに、暑熱順化訓練前には職員の体調、熱中症警戒アラート、及び暑さ指数を把握し、適宜水分や塩分補給、休憩を入れるなどの熱中症対策を講じ、隊員の活動後に疲労を最小限に抑えることができました。

7 まとめ

全国安全週間中にあらためて各研修等を実施することにより、安全意識の高揚や職員自身が事故について自分事と捉えて職務に当たれるようになりました。

今後も「事故0」を合言葉に職員自身が安全意識をもって職務にあたります。